

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは8月31日（月）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		8月28日現在	9月の予想	
			(月末値)	
USD	ドル・円 (円)	160.09	154.0 ~ 166.0	160.0
	協調介入後に反発も、日銀利上げ観測が上値を抑制			
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.159	1.14 ~ 1.20	1.16
	ユーロ・円 (円)	185.48	179.0 ~ 191.0	185.6
	ECB利上げ観測で介入後の下落を取り戻す			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.354	1.32 ~ 1.36	1.34
	ポンド・円 (円)	216.73	212.0 ~ 218.0	214.4
	英中銀の利上げに慎重な姿勢が英ポンドの重石、対円では日銀会合を警戒			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	114.74	113.0 ~ 116.0	114.0
	NZドル・円 (円)	94.68	92.0 ~ 96.0	93.5
	豪ドルはインフレ、NZドルは利上げが下支えも、日銀利上げが徐々に重石に			
株式 相場	日経平均 (円)	66,406	63,000 ~ 70,000	68,000
	ボラティリティは高まるうが、各種悪材料に踊らされるべきではない			
	NYダウ (ドル)	53,560	52,500 ~ 55,500	54,000
長期 金利	ハイテク決算後は波乱を見込むが月間では横ばいか			
	日本 (%)	2.931	2.75 ~ 3.00	2.85
	財政懸念と日銀利上げ観測を背景に金利は上昇しやすいが水準感の買いが歯止め			
	米国 (%)	4.718	4.40 ~ 4.70	4.60
	理論・定性両面から、長期金利は変動余地に乏しい			

◆ 今月の注目ポイント

日米欧同時利上げの可能性と債券供給ラッシュ

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【9月、日米欧「同時利上げ」の可能性】9月は日米欧の中銀がそろって利上げに動く可能性がある。OIS市場の利上げ確率は28日でFRB 58%、ECB95%、日銀90%。FRBは先週ジャクソンホールでインフレ抑制を重視する姿勢を鮮明にしたウォーシュFRB議長講演を受け、上昇。ただし、同議長は政策経路の事前提示に慎重で、判断は今後の雇用・物価指標に左右される。利上げ観測は相応に織り込まれており、金利を動かすのは決定自体より、声明・会見が追加利上げを示唆するかであろう。為替は各中銀の市場予想比のタカ派度が方向を左右する。
日本長期金利	○	【財政懸念と供給ラッシュ、金利上昇リスクに警戒】国内では拡張財政への警戒も残る。市場では新規国債発行額40兆円程度が一つの目安とされるが、正式な上限ではなく、歳出・税収次第では上振れる余地がある。9月は月初から10年・30年債入札に加え、レイバーデー後の米投資適格社債の起債増も見込まれる。金融政策のタカ派化と債券供給が重なれば、日米の長期金利が急上昇するリスクに留意したい。

◆ アジア通貨見通し

	8月28日現在	9月の予想	
		(月末値)	
人民元・円	23.78	23.00 ~ 24.50	23.80
バーツ・円	4.829	4.70 ~ 4.90	4.80
ルピア・円	0.905	0.87 ~ 0.92	0.89

◆ 今月の重要日程

1日 (火) 日 4-6月期法人企業統計調査	16日 (水) 米 FOMC
1日 (火) 日 10年債入札	18日 (金) 日 8月CPI
4日 (金) 米 8月雇用統計	18日 (金) 日 日銀金融政策決定会合
9日 (水) 米 10年債入札	28日 (月) 日 決定会合議事要旨(7/30,31)
10日 (木) 欧 ECB理事会	30日 (水) 中 9月PMI
11日 (金) 米 8月CPI	30日 (水) 米 4-6月期GDP(確報値)

◎注意事項をよくお読み下さい

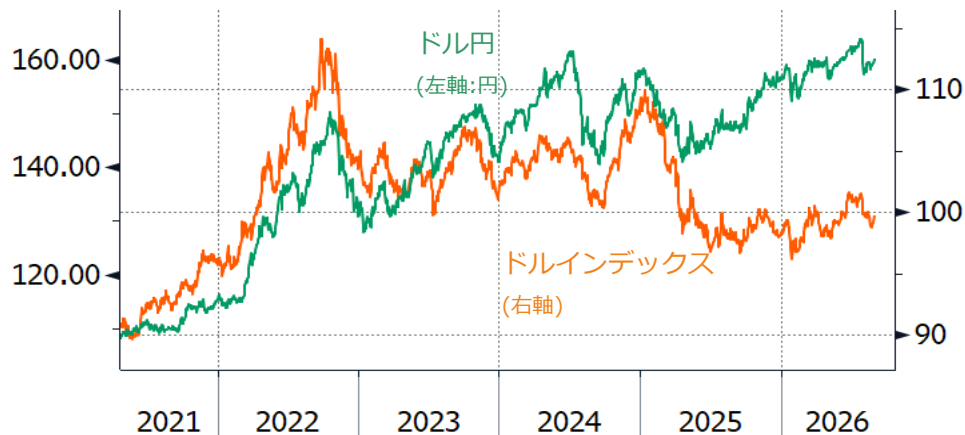
2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



出所：Bloomberg

米ドル円

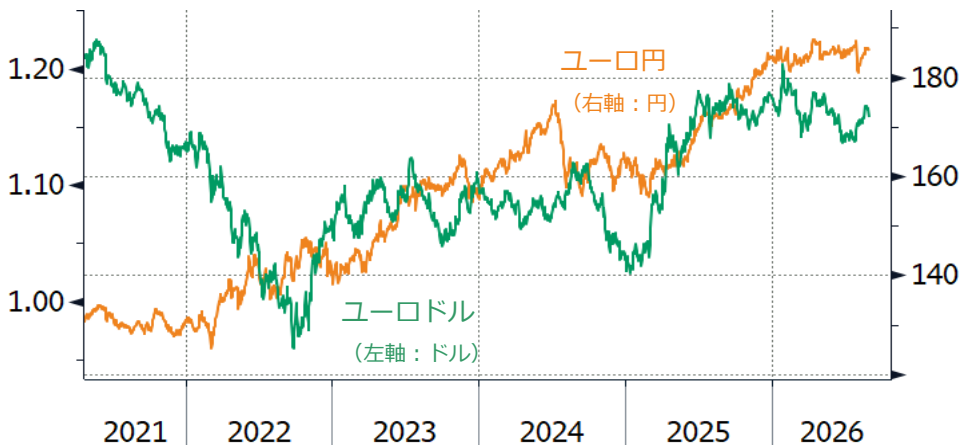
154.00 – 166.00円

協調介入後に反発も、日銀利上げ観測が上値を抑制

8月のドル円は、日米の協調介入が確認されたことで、月初に一時155円台まで下落した。もっとも、介入だけでは中長期的なトレンドを転換できないとの見方から円買いは続かず、6日には158円台、10日には159円台まで反発した。その後は、軟調な米7月雇用統計と物価上昇の鈍化を受けてFRBの9月利上げ観測が後退したほか、米財務省による長期国債の買い戻し拡大を巡ってドルが売られ、159円前後で上値の重い推移となった。一方、日本では輸入コストを背景に物価上昇圧力が強まる兆候から、日銀の9月利上げ観測が高まったことも円を下支えた。

9月のドル円は158～160円程度を中心とする推移を想定する。日銀が政策金利を1.25%へ引き上げ、追加利上げのペース加速を示唆すれば、短期的に円高が進む可能性がある。また、160円台では日米による追加の協調介入が警戒され、上値は抑えられやすい。一方、FRB内ではインフレへの警戒が根強く、今後の利上げの可能性も依然として残存する。日米金利差はなお大きい状態が継続し、原油高や日本の財政懸念といった円安要因も解消していないことから、日銀会合後に材料出尽くしとなれば、再び160円台を試す展開も考えられよう。

ユ ー ロ



出所：Bloomberg

ユーロドル

1.14 – 1.20ドル

ユーロ円

179.00 – 191.00 円

ECB利上げ観測で介入後の下落を取り戻す

8月のユーロ円は、日米の協調介入が確認されたことに加え、米財務省がユーロ売り・円買いを行ったとの報道から、月初に一時180円割れの水準まで急落した。その後は、介入効果の薄れに伴って円が軟化したうえ、ユーロも対ドルで月初の1.15ドル台前半から一時1.17ドル台へ上昇したことで、ユーロ円は185円台まで持ち直した。エネルギー高を背景にECBの9月利上げ観測が強まったほか、8月PMIが今年最高水準となり、景気の底堅さが確認されたことがユーロを支えた。

9月は185円前後を中心とする高値圏での推移を想定する。ECBは利上げを行う可能性が高く、追加利上げにも含みを残せば、ユーロは底堅く推移しよう。一方、日銀も利上げ観測が高まっており、今後の利上げペース加速を示せば円が買われる可能性がある。ECBと日銀がともに利上げする中では一方向の動きは出にくく、ECBが更なる追加利上げには慎重な姿勢を示せば、ユーロ高基調を維持しながらも、187円前後では上値が重くなるとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

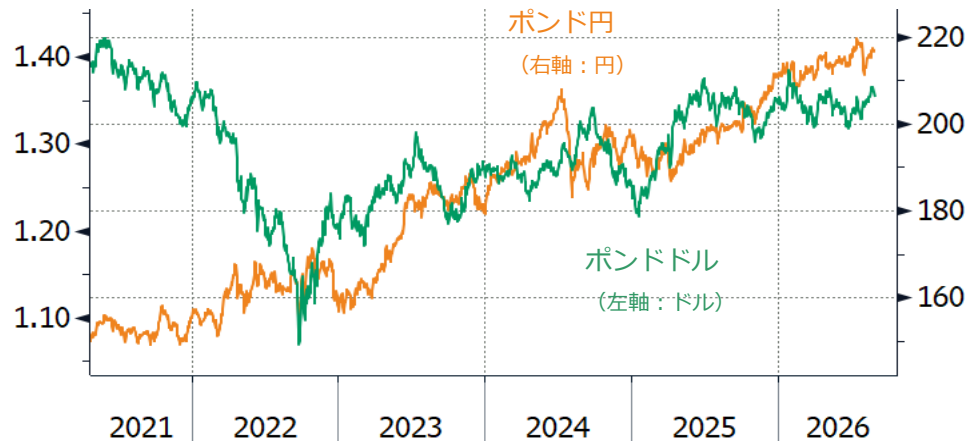
2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



出所: Bloomberg

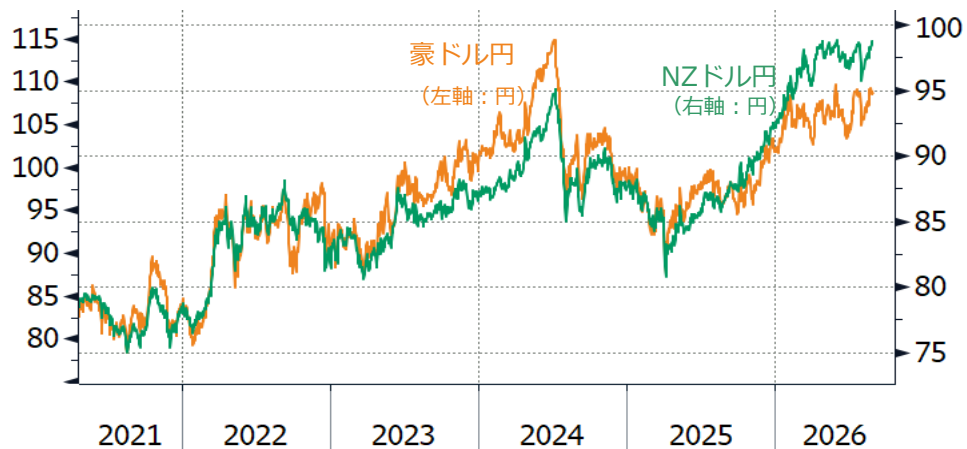
ポンドドル	1.32 – 1.36ドル
ポンド円	212 – 218円

英中銀の利上げに慎重な姿勢が英ポンドの重石、対円では日銀会合を警戒

8月の日米協調介入により英ポンド円は直近の安値圏でのスタートとなったが、下げ幅を縮小。中東情勢を巡る警戒感が一部後退する中、英中銀のタカ派姿勢が英ポンドを下支えし、対ドルでも底堅い動きとなった。7月末に実施された英中銀金融政策会合では政策金利を3.75%に据え置いたものの、3名が0.25%の利上げを主張。インフレ再加速への警戒が根強く、ポンド円は円安も重なり217円台まで上昇。対ドルで1.37ドルに迫る場面も見られた。

9月の英ポンドは底堅い展開を見込む。17日の英中銀会合では追加利上げの必要性を巡る議論が焦点となる。バイリー総裁はジャクソンホール会合で、英国でインフレの顕著な二次的波及効果はまだ生じていないとの見方を表明し、利上げに慎重な見方を示した。一方、17-18日の日銀会合では利上げ観測が高まっており、円高圧力には注意が必要。英中銀の利上げに慎重な姿勢は対ドル・対円双方で英ポンドの上値抑制要因となろう。また日銀利上げの思惑や介入警戒もポンド円の重石となろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



出所: Bloomberg

豪ドル円	113.00 – 116.00円
NZドル円	92.00 – 96.00円

豪ドルはインフレ、NZドルは利上げが下支えも、日銀利上げが徐々に重石に

8月の豪ドル円は大幅に上昇。RBAは政策金利を4.35%に据え置いたものの、基調インフレは依然高く、インフレ見通しのリスクは上振れ方向と評価。年内の追加利上げ観測が残る中、円安進行も重なり豪ドル円は115円近辺まで上昇した。CPIが予想を下回ったことも豪ドルの下支えとなった。一方、NZドル円は円安を背景に95円近辺まで上昇した。しかし、インフレ期待の下振れが重石となり、上値は抑えられた。

9月の豪ドル円は高値圏での推移を見込む。RBAは29日の会合で政策金利据え置きがメインシナリオであるが、インフレへの警戒姿勢は維持するとみられ、豪ドルを下支えしよう。NZドル円は2日の中銀会合が焦点。現状利上げがコンセンサスであり、一定の下支えとなる。もっとも、17-18日の日銀政策決定会合で利上げが実施されれば、円高圧力が高まりやすい、豪ドル円・NZドル円とも上値は徐々に重くなると予想する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

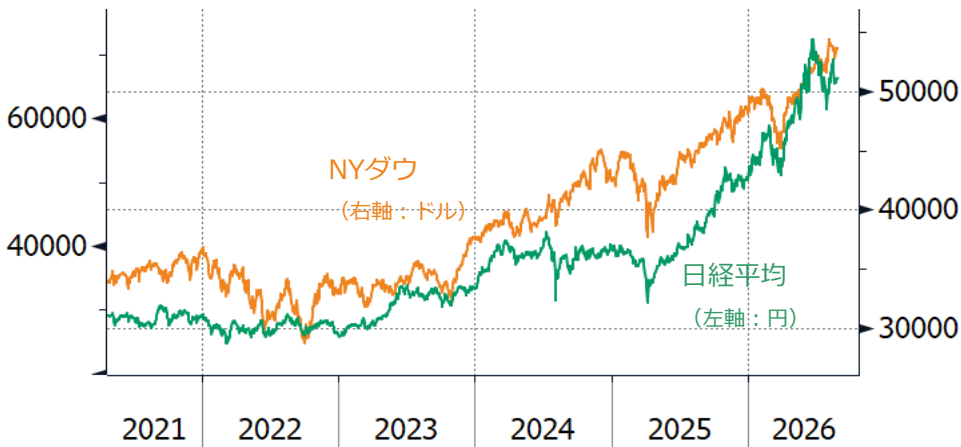
2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



出所：Bloomberg

日経平均

63,000 – 70,000円

ボラティリティは高まろうが、各種悪材料に踊らされるべきではない

昨年を振り返ると、一部投資家の売り煽りはハイテク市場を約6か月混乱させたが、今般の売り煽りからの反発は約一か月と短期間で終わった。市場は「学習」しており、これは中東情勢にせよトランプ大統領の不規則発言にせよ、同様であろう。加えて、企業業績は極めて堅調である。3月決算ベースでは、1Q終了時点の進捗率が世界情勢の混乱にもかかわらず、34%と高水準である。中東情勢は長期化する見通しであるが、過度な懸念は不要であろう。

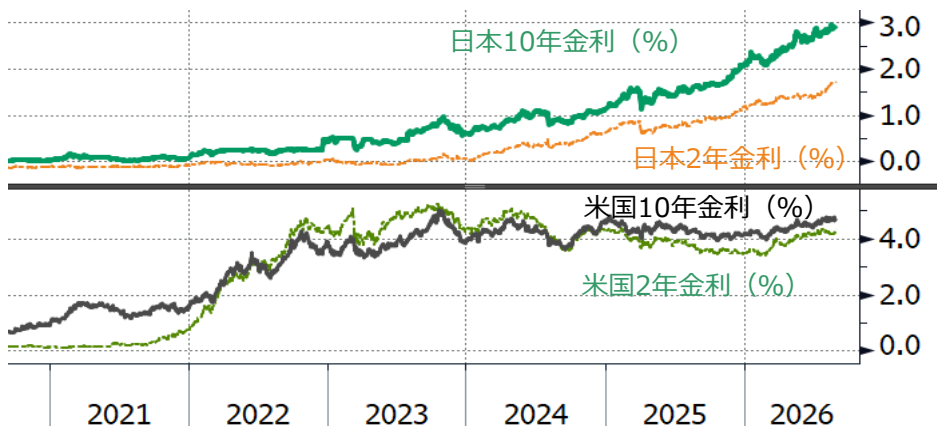
NYダウ

52,500 – 55,500ドル

ハイテク決算後は波乱を見込むが月間では横ばいか

基本的な見方は日本株と同様であるが、月初はハイテク株の決算を巡って市場のボラティリティが高まろう。とりわけ、AI悲観論者や空売り投資家によるハイテク株のネガティブキャンペーンが盛んに行われることが予想されるが、投資家は推測と事実は分けて考えるべきであろう。月初はハイテク株中心に弱含む可能性があるが、月末にかけてはフェアバリューに基づき評価が見直され、月間では横ばい圏での推移となる。

長 期 金 利 見 通 し



出所：Bloomberg

日本国債10年

2.75 – 3.00%

財政懸念と日銀利上げ観測を背景に金利は上昇しやすいが水準感の買いが歯止め

8月は財政懸念がくすぶるなか、日銀の早期利上げ観測も加わり、10年金利は一時3%近くまで上昇した。その後は、米財務省による国債買戻し増額を受けた米金利の落ち着きなどから、上昇幅を縮小した。9月も金利には上昇圧力がかけやすい。日銀の追加利上げ観測に加え、来年度予算の歳出拡大への警戒が続き、金融政策・需給の両面から金利上昇要因となろう。一方、投資家による水準感に着目した買いが入りやすく、一方向に上昇する展開にはなりにくい。

米国債10年

4.40 – 4.70%

理論・定性両面から、長期金利は変動余地に乏しい

米金利は4.40% – 4.70%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。直近の動向を踏まえ、モデルを更新した。ウォーシュ議長は利上げに否定的な様子が窺える一方で、市場は中長期の期待インフレ率の高め、金利の低下を抑制している。財務省によるバイバック等金利低下材料も見受けられるが、構造的要因に端を発する金利の高止まり傾向を大きく変容させる効果は期待し難い。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

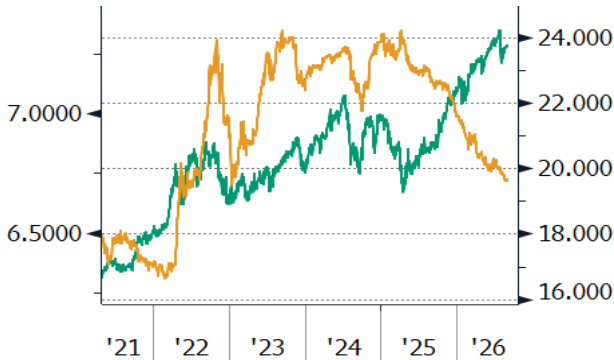
2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

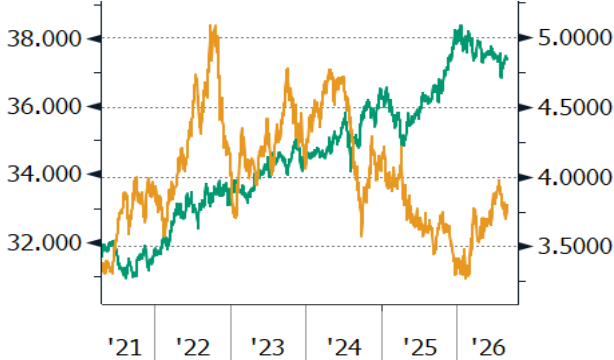
◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		9月の予想			見通し
中国	人民元/円	23.00	～	24.50	人民元は対ドルで底堅く、対円では上値の重い展開 8月の人民元は日米協調介入を受けて、対円で月初は売りが先行したが、その後は底堅く推移。対ドルでも堅調に推移した。輸出が好調であったほか、グローバルなドル売り基調が人民元の下支えとなった。9月是对ドルで底堅く、対円で上値の重い展開を予想。良好な輸出動向が、引き続き人民元の下支えとなる見込み。一方、対円では介入警戒や日銀による9月利上げ観測から上値の重い展開となろう。
	ドル/人民元	6.75	～	6.85	
タイ	バーツ/円	4.70	～	4.90	金利格差から対ドル・対円で軟調推移 8月のバーツは対ドル、対円で底堅く推移。米国の資金流出や・介入一服によるドル安・円安基調が継続するなかでバーツは底堅く推移した。しかし、26日のタイ中銀会合で政策金利を1.00%に据え置き、金融緩和的な政策運営を維持する姿勢を示した。バーツ相場には重石となっている。9月のバーツは対ドル・対円で上値の重い展開を予想。政策金利は1.00%と低いなかで、日銀の利上げ観測もあり、米国との金利差が意識されよう。
	ドル/バーツ	32.5	～	34.0	
インド	100ルピア/円	0.87	～	0.92	通貨安定を重視する中銀姿勢がルピアを下支えも日銀利上げを機に8月の反動が出やすい 8月のルピアは対円、対ドルで堅調に推移。インドネシア中銀は18-19日の会合で政策金利を5.75%に据え置いたが、ルピア相場の安定を重視し、海外資金の流入促進策を継続したことが、ルピアの下支えとなった。9月のルピアは底堅いものの、上値は限定的と予想する。5.75%の高い政策金利や中銀による通貨安定策は支援材料。一方、日銀の利上げが実施されれば円高圧力が強まり、8月の反動もあり、対ドルでも上値は重いであろう。
	ドル/ルピア	17,500	～	18,200	

—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2026年						2027年						ポイント
		9月			10～12月			1～3月			4～6月			
ドル円	レンジ	154	～	166	150	～	170	155	～	175	155	～	175	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。また、FRBの利上げ観測もあって日米金利差拡大が意識されやすい。
	期末値	160			160			165			165			
ユーロドル	レンジ	1.14	～	1.20	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.08	～	1.20	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受け25年春より急速にユーロ高が進行した。足元ではFRBの利上げ観測後退から堅調に推移も、中東情勢が落ち着けば2027年にはECBの利下げ転換が見込まれ、ユーロは一旦これ以上の大幅な上昇は見込みがたいか。
	期末値	1.16			1.15			1.15			1.14			
ユーロ円	レンジ	179	～	191	175	～	195	180	～	200	180	～	200	
	期末値	186			184			190			188			
ポンドドル	レンジ	1.32	～	1.36	1.28	～	1.35	1.28	～	1.34	1.28	～	1.34	英国の政局不安、財政懸念から不安定な展開が想定され、対円・対ドルで上値の重い展開を想定。FRBによる利上げ観測によりドルが強含みやすい展開を予想。英中銀の利上げに慎重なスタンスも英ポンドの重石となりやすい。
	期末値	1.34			1.33			1.32			1.31			
ポンド円	レンジ	212	～	218	195	～	215	200	～	220	200	～	220	
	期末値	214			213			218			216			
ドル人民元	レンジ	6.70	～	6.74	6.65	～	6.85	6.60	～	6.80	6.55	～	6.75	堅調な輸出動向を背景に対ドルで元高が進行する展開を見込む。但し、当局は相場の安定を重視しており、元高進行も、一方向の動きではなく、緩やかなスピードとなる。対円でも中長期的な円安が進行する中で徐々に下値を切り上げる展開が想定される。
	期末値	6.72			6.70			6.65			6.60			
人民元円	レンジ	23.0	～	24.5	23.0	～	24.5	24.0	～	25.5	24.0	～	25.5	
	期末値	23.8			23.8			24.8			25.0			
豪ドル円	レンジ	113	～	116	110	～	116	108	～	116	108	～	116	豪中銀による追加利上げ姿勢維持は豪ドル円の下支えとなるが、中国景気減速もあり上値は重いであろう。
	期末値	114			113			112			112			
タイバーツ円	レンジ	4.70	～	4.90	4.60	～	5.00	4.50	～	4.90	4.50	～	4.90	景気の回復力が弱く、金融政策も景気下支えを意識した運営となっているため、対ドルでは上値の重い展開。成長率の鈍さが逆風となりやすい。
	期末値	4.80			4.80			4.70			4.70			

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
9/1(火)	10年債入札 4-6月期法人企業統計調査	8月ISM製造業景況指数	(中) 8月製造業PMI
9/2(水)		7月製造業受注 8月ADP雇用統計 米地区連銀経済報告	
9/3(木)	30年債入札	7月貿易収支 8月ISM非製造業景況指数	
9/4(金)	7月家計調査	8月雇用統計	
9/7(月)		(労働感謝の日)	
9/8(火)	4-6月期GDP (二次速報値) 5年債入札 7月毎月勤労統計 (速報) 8月景気ウォッチャー調査	3年債入札	
9/9(水)		10年債入札	(中) 8月CPI
9/10(木)		30年債入札 8月PPI 8月中古住宅販売	(欧) ECB定例理事会
9/11(金)	8月企業物価指数	8月CPI	

	日本	米国	その他
9/14(月)			
9/15(火)	20年債入札	20年債入札 9月NY連銀製造業景気指数	(中) 8月生産・小売・投資 (独) 9月ZEW景気指数
9/16(水)	7月機械受注 8月貿易統計	8月小売売上高 FOMC (結果発表)	
9/17(木)		8月住宅着工・許可件数 9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(英) BOE金融政策委員会
9/18(金)	8月消費者物価指数 植田日銀総裁定例会見		
9/21(月)	(敬老の日)		
9/22(火)	(休日)	2年債入札	
9/23(水)	(秋分の日)	5年債入札	(欧) 9月PMI (速報値)
9/24(木)		7年債入札 8月新築住宅販売	(独) 9月IFO企業景況感指数
9/25(金)			
9/28(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(7/30 ～31開催分)		
9/29(火)	40年債入札	9月消費者信頼感指数	(豪) 準備銀行理事会
9/30(水)	2年債入札 8月鉱工業生産 8月住宅着工件数	4-6月期GDP (確定値) 8月個人所得・消費支出 9月ADP雇用統計	(中) 9月PMI (中) 9月製造業PMI



◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/31～8/6】

◎ 中国、米国の対中制裁へ対抗措置

中国商務省は 6 日、中国製人型ロボットの輸入規制など米国による対中制裁への対抗措置として、ドローンや関連部品の対米輸出規制を強化すると発表した。米国がさらに制裁を科せば、中国側も対抗すると警告。9 月に予定される習近平国家主席の訪米に向け、双方の駆け引きが激しさを増している。

また、外国のソフトウェアを使用する輸入品の複合機について、中国の国家安全保障への影響を調査するとも発表した。

【8/14～20】

◎ 1～7 月の人民元貸出、増加額は 10.4 兆元

中国人民銀行（中央銀行）が 14 日発表した金融統計によると、全国の金融機関による 2026 年 1～7 月の人民元建て貸出増加額は 10 兆 3,800 億元（約 245 兆 2,000 億円）だった。7 月末時点の人民元建て貸出残高は前年同月末比 5.1%増の 282 兆 2,900 億元となった。外貨建ての貸出残高は 0.2%増の 5,569 億米ドル（約 88 兆 7,300 億円）。1～7 月は 119 億米ドル増えた。人民元建て、外貨建てを合わせた貸出残高は 5.0%増の 286 兆 700 億元となった。1～7 月の人民元建て預金増加額は 17 兆 7,900 億元。このうち個人預金は 6 兆 9,500 億元、非金融企業は 1 兆 5,700 億元それぞれ増加した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
実質GDP成長率	%	4.8	-	-	4.5	-	-	5.0	-	-	4.3	-
消費者物価上昇率	%	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2	1.3	1	1.2	1.2	1	0.5
都市部調査失業率	%	5.2	5.1	5.1	5.1	5.2	5.3	5.4	5.2	5.1	5.0	5.2
輸出額	10億ドル	328.1	304.9	330.0	357.2	356.6	299.8	321.0	359.1	376.3	411.9	397.9
輸入額	10億ドル	239.4	216.9	220.1	245.3	236.4	210.3	271.0	274.6	271.2	286.4	285.5
経常収支	100万ドル	491,201	-	-	735,022	-	-	184,300	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1	3,427.8	3,342.1	3,410.6	3,442.2	3,416.3	3,418.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.13	7.12	7.11	7.04	6.97	6.91	6.90	6.84	6.79	6.78	6.78

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○テレビがもう売れない？

2026年上半期の中国国内テレビ市場は、低調な結果となりました。出荷台数は前年同期比10.1%減の1,494万7,000台にとどまり、2010年以降の同期間としては過去最低を記録しました。

しかし、この販売不振は、単にテレビへの需要が減少したことによるものではありません。背景には長年にわたって進んできた市場の構造変化があります。従来型テレビの普及がすでに飽和状態に達しており、一般的なユーザーの買い替えサイクルも8年を超えるなど長期化しています。

特に若年層では、余暇時間にスマートフォンやタブレットを利用する傾向が強く、モバイルプロジェクターなど新たな製品カテゴリーの登場も、従来型テレビからの利用者流出を加速させています。

こうした市場環境を受け、主要メーカーは現在、1,000元（約2.3万円）未満の低価格帯での激しい競争から徐々に距離を置つつあります。その結果、特に32インチ以下の小型テレビ市場は急速に縮小しています。

一方で、大型・高付加価値製品は堅調です。2026年上半期には、市場全体が縮小するなかでもオンラインでの小売価格は上昇し、「618」ショッピングフェスティバル期間中のオンライン平均格は3,568元（約8.4万円）に達しました。75インチ以上の大型モデルや、Mini LED技術を搭載した中・高価格帯モデルは、市場全体を上回る好調な推移を見せており、メーカーの収益拡大を支える存在となっています。

一般家庭において、テレビはもはや単なる生活必需品ではなく、住宅の改装やゲーム、ホームエンターテインメント環境の構築などに合わせて選ばれる「高付加価値商品」へと、その位置付けを変えつつあります。

出荷台数の減少は、必ずしもテレビ市場そのものの衰退を意味するものではありません。低価格帯製品を中心とした従来型市場が縮小する一方、より大きな画面や高画質など、消費者が求める体験価値を備えた製品には一定の需要が存在しています。中国のテレビ市場は今、「台数を追う市場」から「付加価値を競う市場」へと転換しつつあります。



◎注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号) りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向 りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆2026年6月のタイ経済、前月と横ばい

- ・タイ中央銀行の報告によると、2026年6月のタイ経済は全体として前月から横ばいとなった。
- ・**製造業**：工業生産指数は、前年同月比▲3.1%と3カ月連続でマイナスを記録した。縮小の主因は自動車産業（EV以外）と石油産業。一方で日用消費財やペットフード等は成長している。
- ・**民間消費**：民間消費は前年同月比+4.9%と、前月の+3.5%から改善した。政府による消費刺激策が奏功したほか、燃料価格が高水準にある中、EV人気の高まりを背景にEV販売が増えたことも、耐久財消費の押し上げに寄与したとみられる。一方、サービス部門では低下がみられ、外国人観光客の減少や観光収入の低迷が影響した。
- ・**民間投資**：民間投資は前年同月比+18.1%と、前月の+21.7%から増加ペースが鈍化したが、機械・設備投資は高い伸びを維持した。
- ・**2026年第2四半期（4～6月）の国内総生産（GDP）**は前年同期比+1.9%だったが、前四半期の+2.8%から減速した。農業、非農業、サービス業ともに前四半期から伸びが鈍化した一方、官民の設備投資と輸出が伸びていることから、通年のGDP成長率見通しは2.0～2.5%に上方修正した。

◆2026年6月の輸出額、AIブームけん引

- ・タイ商務省によると、2026年6月の輸出額は前年同月比で+20.8%増加し、約5兆6,800億円相当に達した。この伸びは前月の+10.6%からさらに加速した。電子機器やスマートフォン、電気機器等が成長をけん引しており、AIを支えるインフラ産業や、AI時代に即したスマート機器産業の成長が背景にある。主要工業製品+25.1%と好調を維持した一方、農産物・加工品は▲6.5%と減少した。
- ・主要な輸出先では、米国向けが+44.3%となった。通商政策を巡る不確実性を背景に発注が前倒しされる動きがみられる。日本向けは+22.7%と7カ月連続増加し、自動車・同部品、合成樹脂、化学品が増加した一方、缶詰・加工水産物、鉄鋼・同製品は減少した。
- ・その他、中国、欧州連合、ASEAN（5カ国）向けの輸出はいずれも増加した一方、中東は減少した。
- ◆**2026年上半期のFDI申請額、8割増**
- ・タイ投資委員会（BOI）によると、2026年上半期（1～6月）の海外直接投資（FDI）の申請は前年同期比▲33.1%の877件、投資額は+79.9%の405億米ドルだった。特にデータセンターや電気・電子関連事業への投資が増加をけん引した。日本からの申請は123件、投資額は9.7億米ドルだった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	2026/6	2026/7
実質GDP成長率	%	1.2	-	-	2.5	-	-	2.8	-	-	1.9	-
消費者物価上昇率	%	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7	-0.9	-0.1	2.9	2.8	2.4	2.0
失業率	%	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.9	0.9	0.9	0.9	-
輸出額	100万ドル	31,000	28,915	27,514	29,015	31,573	29,440	35,157	31,583	34,333	34,656	-
輸入額	100万ドル	29,444	32,113	30,026	29,099	34,876	32,273	38,497	41,604	40,044	41,191	-
経常収支	100万ドル	2,389	-1,687	-1,326	3,436	549	1,666	-798	-7,790	-6,432	-3,474	-
外貨準備高	10億ドル	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6	293.9	280.5	287.0	287.5	279.2	275.5
主要政策金利	%	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
対ドル為替レート	バーツ	32.0	32.6	32.4	31.5	31.3	31.2	32.3	32.3	32.5	32.9	33.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利 出所：Bloomberg

◎ 注意事項をよくお読み下さい

2026/8/31

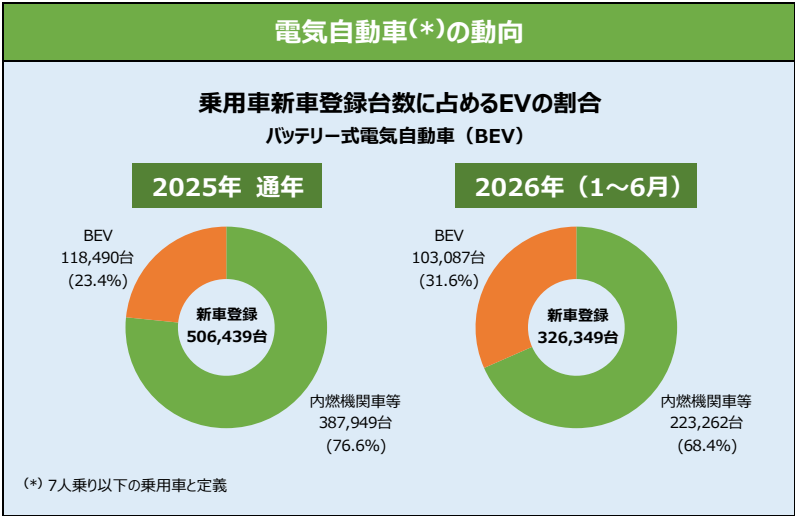
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年9月号)

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

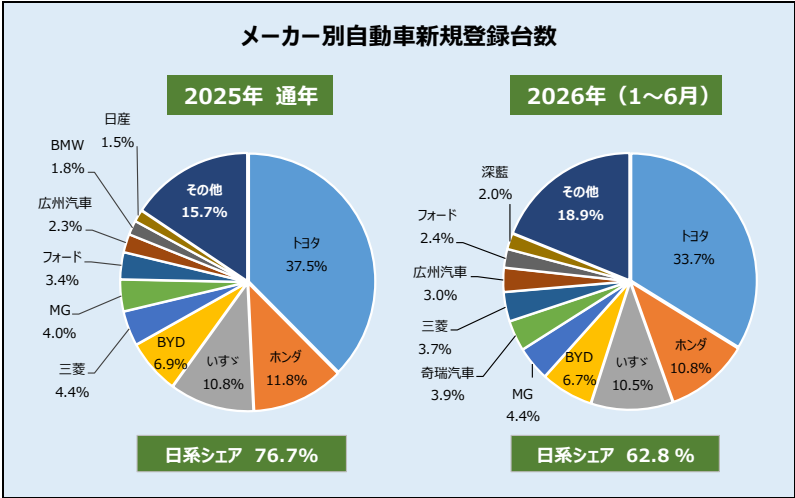
タイにおける自動車産業の動向

生産・国内販売・輸出の動向								
		2023年	2024年	2025年	2026年 (1～6月)	前年同期比 (%)	6月	
【台数】								
四輪	生産台数	乗用車	648,803	558,440	550,456	252,371	95.4	48,317
		商用車	1,192,883	910,557	905,113	464,841	101.0	72,074
		合計	1,841,686	1,468,997	1,455,569	717,212	99.0	120,391
	国内販売 台数	乗用車	292,505	224,148	239,236	125,812	107.1	22,875
		商用車	483,275	348,527	381,930	221,154	119.4	35,849
		合計	775,780	572,675	621,166	346,966	114.6	58,724
輸出台数		1,117,539	1,019,213	935,750	421,144	91.7	81,526	
二輪	生産台数		2,120,738	1,887,208	1,972,902	1,020,194	97.9	183,370
	国内販売台数		1,856,814	1,683,239	1,711,846	953,353	105.2	178,028
	輸出台数		822,608	938,762	893,198	463,444	106.3	61,705
【完成車輸出金額】(百万パーツ)								
四輪		719,992	699,163	621,662	289,188	92.0	58,240	
二輪		68,589	63,969	61,596	33,003	104.0	4,434	

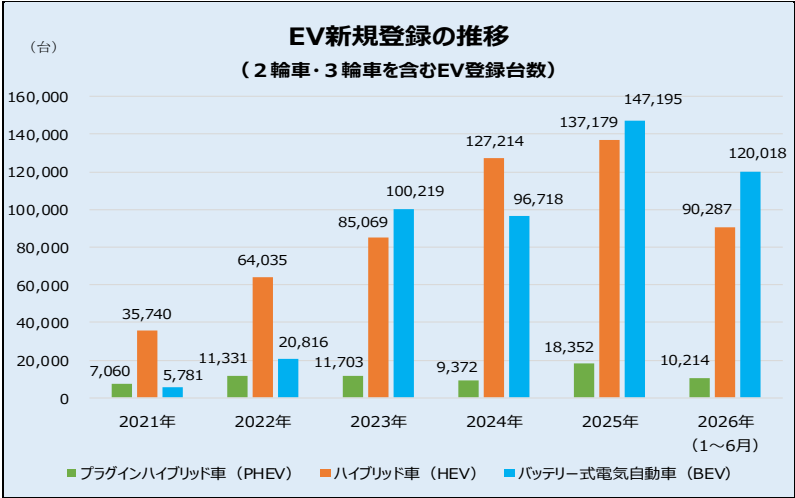
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局